

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和 8 年 9 月定例会	
議案番号 議案名	認定第 1 号 令和 7 年度松戸市一般会計歳入歳出決算の認定について
議員名・会派名等	政策実現フォーラム・社民(工藤すず子、竹内さちえ、DELI、原ゆうじ、増田かおる)
賛否態度	賛成
賛否など態度決定に至った理由や討論	(政策実現フォーラム・社民では、最終日に行った討論を持って、賛否態度の理由説明としています) 振り返れば私達会派は、令和 7 年度当初予算の審査において、本市の財政運営に対する強い危機感から新庁舎整備や新松戸駅快速停車に関連する予算の削除を求める修正案を提出いたしました。残念ながら修正案は否決され、当時の予算原案には反対せざるを得ませんでした。今回の決算審査を通じて、私たちが当時抱いていた財政への危機感は、懸念に留まらず、まさに極めて深刻な現実として裏付けられることとなりました。 しかし同時に、令和 7 年度は本市の財政運営にとって、これまでの放漫な体質から脱却するための大きな転換点となった年度でもあります。以下、本決算を認定すべきとする理由と、今後本市が歩むべき財政規律への強い要望を申し述べます。 まずは歳入について、厳しい経済情勢下においても、市民の皆様の不断の努力と市側の実直な税務努力により、市税決算額が過去最高を記録しました。 これ自体は大変喜ばしいことであり、正當に評価すべき成果であります。しかし、その実態を決して楽観視することはできません。本市よりも人口が 6 万人以上も少ない隣の柏市に、市税総額で完全に追い抜かれ、約 6 億円もの差をつけられたという冷徹な事実は、本市の都市力・経済活力の地盤沈下を示すシグナルとして極めて重大に受け止めるべきです。 さらに深刻なのは、本市の財政運営が長年抱えてきた構造的な体質そのものです。ここ数年、税収自体は増えているにもかかわらず、民生費をはじめとする歳出予算の肥大化によって、毎年大幅な財源不足が生じてきました。そして、その場しのぎの穴埋めを、財政調整基金の過度な取り崩しや、前年度からの繰越金という不安定な財源に依存し続ける歪な構造が常態化してきています。私達会派が当初予算で激しく警鐘を鳴らしたのは、まさにこの持続不可能と言わざるを得ない財政体質に対してでありました。 しかし、こうした非常に厳しい財政状況下において、令和 7 年 6 月に

新市長が就任され、これまでの拡大路線に歯止めをかけ、短期的な財政健全化へいち早く舵を切られた点については、高く評価をしたいと思います。

実際、私達会派が当初予算で強く問題視し、削除を求めていた「新松戸駅快速停車関連予算」は実質約 8 割が減額され、「新庁舎整備」の基本計画については、ずるずると先送りすることなく打ち切り精算となりました。当初の予算見込みの甘さや、計画変更に伴う精算費用の発生という課題・反省点は否めないものの、状況の変化や財政の現実に合わせて、立ち止まるべきところで速やかに予算を縮小し、公金の無駄を最小限に省いた政治判断と行政手続きについては、十分理にかなうものであります。

また、その他の事業についても、長引く物価高騰や多様化する市民ニーズへの対応に苦慮しながらも、一般会計決算の執行手続き自体は、総じて適正に行われたと認められます。よって、決算そのものは、認定すべきものと判断いたしました。

決算自体は適正であり、賛成の立場をとるものでありますが、本市が抱える構造的な財政課題がこれで解決したわけでは決してありません。

本市は近隣他市に比べて、貯金にあたる財政調整基金の残高が極めて少なく、今後控える新焼却施設や新庁舎の建設といった数々の大型事業の多くを、借金、すなわち地方債に頼らざるを得ないのが実態です。

これらの莫大な返済が重なり、本市の財政負担が最大のピークを迎えるのは、今から 6～7 年後の「令和 15 年度頃」という未来であります。私たちに小手先の収支改善だけで満足している時間はありません。この最大の難局に耐えうる強固な財政運営の基盤を、今この瞬間から、全庁を挙げて構築していくべきであります。

さらに、令和 9 年度からは都市計画税率の引き上げという、市民への直接的な負担増が始まります。市民の皆様に痛みを伴う負担をお願いする以上、行政側にはこれまで以上の覚悟と、1 円の無駄も許さない透明性が求められます。

松戸たかまさ市長のもと、今後の大型事業の推進にあたっては、単なる期待感や楽観的な予測に頼るのではなく、費用対効果を厳格に数値化し、将来の市民に及ぼす財政負担をしっかりと見極めるべきであるということを、ここに強く指摘しておきます。

結びに、時代のニーズや社会情勢の変化を言い訳にすることなく、効果の薄くなった事業や、硬直化した既定経費については、聖域なく不断の見直しを断行すべきだと思います。令和 7 年度決算の執行を一つの反省材料、かつ未来への土台とし、真に持続可能な松戸市を築くための強固な財政規律を確立することを強く求めます。